

日 本 史 B (100点満点)

問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点	問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点		
第1問 (18)	1	1	1	3	第4問 (16)	1	17	3	3		
	2	2	4	3		2	18	2	3		
	3	3	3	3		3	19	5	3		
	4	4	3	3		4	20	2	3		
	5	5	7	3		5	21	3	4		
	6	6	1	3	第5問 (12)	A	1	22	4	3	
第2問 (16)	A	1	7	4			3	2	23	2	3
		2	8	4		3	B	3	24	1	3
	3	9	2	3		4		25	3	3	
	B	4	10	2		3		第6問 (22)	A	1	26
		5	11	1	4	2	27			2	3
第3問 (16)	1	12	4	3	3	28	3			3	
	2	13	3	3	4	29	1			3	
	3	14	4	3	B	5	30		2	3	
	4	15	2	4		6	31		4	3	
16		2	3	7		32	3		3		

2023年度 大学入試センター共通テスト(日本史B追試験)解説

第1問 総合。テーマは肖像画。かなり歴史総合を意識している。それにしても、正直言って問1・4・5・6は日本史の入試問題(学力判断)として機能していないのではないかと思う。

- △ 問1 小村寿太郎(近現代)と歌川広重(近世)の時期が分かれば、表を見るだけの平易な問題。
- 問2 II(高松塚古墳壁画：古代)→III(「見返り美人図」近世)→I(黒田清輝「湖畔」明治)。なおこの3つの図版は頻出中の頻出で、3つともセンター試験時代から通算4回めの出題。
- 問3 X：ザビエルなので鹿児島(b)。Y：ペリーなので琉球を経て浦賀へ(c)。
- △ 問4 調べるための方法(根拠)を選ぶ問題は本試験にもあり、近年の傾向。①～④がそれぞれメモ1～4に対応している。③武田の家紋が四菱ならば、足利がいつから二引両を家紋としていても関係ない。
- △ 問5 ア：密教の宝具(三鈷)を持ち、イ：武器を持たず、ウ：軍服を着ていることから明らか。
- △ 問6 表はほぼ関係ない。X：天皇を助ける→忠君愛国。Y：学者や作家→科学技術・文化。

第2問 古代の文化中心の問題。会話形式。

- 問1 興福寺阿修羅像は乾漆造であり、天平文化は北魏ではなく唐文化の影響を受ける。
- 問2 ④封戸は上級貴族に支給されるので行基には当てはまらない。
- ▼ 問3 I(藤原宮)→III(紫雲楽宮)→II(平安京)。IIは「山背国」から長岡京か平安京だと推定したいが、恭仁京だと考えてしまうかもしれない。
- 問4 X：史料に「山中に坐禅」「海外に道を求め」とあるので正文。Y：いかにもありそうな話だが、史料では「讃岐国」が「伏して請う」のは「(空海を)別当に充てその事を済させしめんこと」だから誤文。
- 問5 a：正文。b：「勝手に出家した」私度僧がいるので誤文。c：正文。d：平安遷都にさいして南都平城京の寺院は移転させなかったので誤文。

第3問 中世の社会経済。ここでも会話文による探求的学習風。

- 問1 ア：京柁は太閤検地。イ：「神本」だから神が主。反本地垂迹説。
- 問2 ①国衙領は基本的に減る一方。②大江広元では鎌倉幕府。④「武士が支配するのが公領」ではない。
- 問3 II(地頭設置：鎌倉時代)→III(半済令：南北朝)→I(貫高制：室町時代)
- 問4 (1) まず、重藤十六名の柁>公田の柁>下行柁の順であることを確認しよう。同じ1柁でも、東寺が年貢を受け取る時には実質0.778(または0.867)であり、僧侶たちに配分するのは0.585であるから、余った0.193(0.282)は東寺に残る(aと一致)。史料1のように公田で重藤十六名の柁を使って年貢を徴収すると、公田の百姓にとっては1柁につき0.089の増税になる(bと矛盾)。徴税した代官が領主の東寺に公田の柁で計って年貢を納めれば、差(0.089)は代官の利益になり、それが慣例だったこと(cではなくdと合致)が史料2に述べられている。ややこしいが難しくはない。
- (2) X：正文。Y：誤文。国一揆は国など広域で、かつ国人層が主となって起こされた。

第4問 近世史の文芸・演劇に関する問題。ここも会話文による探求的学習風。

- 問1 ①金貨は計数貨幣。②『国性爺合戦』は元禄文化、『鎖国論』は江戸後期文化。④赤穂事件は5代綱吉時代だが、末期養子禁止の緩和は4代家綱に始まる。
- 問2 X：正文。Y：歌舞伎は寄席ではなく芝居小屋。
- 問3 III(漢訳洋書輸入許可：享保期)→I(『海国兵談』：寛政期)→II(蚕社の獄：天保期)

問4 aは黄表紙の、bは読本の説明。恋川春町は寛政期に弾圧されているから、a・d。

問5 史料2に、合巻は「婦幼の遊び物」を「父母として」作られたとあるから、aは誤文、bは正文である。また史料3から、この作品が大御所時代に書かれ天保改革で弾圧されたと分かり、cが正文である（元禄期の説明のようにも読めるが、大御所時代も同様だった）。dは徳川家慶ではなく家斉であれば正文であったが、家慶は將軍在職中に死亡している（ペリー来航時）ので「大御所」にはなり得ない。

第5問 外交史でテーマはパスポート。

△問1 解説不要だが、Xは実質的に近世の問題。

▼問2 I(台湾出兵：明治初期外交)→III(開拓使官有物払下げ事件：民権運動期)→II(日本郵船：産業革命期)ではあるが、IIとIIIが近接していて判断が難しい。

問3 X：図2に「必要の保護」とあり外務大臣が発行しているから正文。Y：正文。明治憲法では各大臣が個々に天皇を輔弼したので、首相は大臣を個別に罷免できなかった（内閣総辞職はできる）。

問4 史料1は「割与せられたる地方」＝台湾から外へ住居したい者、つまり日本(の植民地)は嫌だから清国本土へ出たい者は2年以内に不動産を売却しろと言っているのだから、aではなくbが正解。cは正文で、dは誤文(台湾の徴兵は第二次世界大戦末期)。

第6問 テーマは漁業。会話など探求的学習要素はない。

問1 ①特に矛盾はない。②1916～1918年は大戦景気の真っ最中である。③1919～1921年の漁獲量は増加している。④1922～1928年は浜口内閣より以前。

問2 X(高橋由一)は明治文化であり、合致するのはa(文明開化)であってb(第一次大戦後の洋風化)ではない。Y(小林多喜二)は大正昭和初期文化であり、合致するのはa(日清戦争期)ではなくb(特高の全国化と治安維持法)である。

問3 II(石井・ランシング協定：第一次大戦中)→I(ワシントン軍縮会議：一次大戦後)→III(ロンドン軍縮会議：昭和初期)。

問4 a：正文。b：辛亥革命は1910年代なので誤文。c：史料2に「其の後に対策を講ずれば良いと云う考えを抱く者少なからざれば」とあり正文。d：史料2に「当事者に警告し事端を発生せしめざる様十分注意」とあり、日本の漁船側への警告しか書かれていないので誤文。

△問5 解説不要

問6 X：石油への切り替えがエネルギーの国外依存を強めたこともあり、東海道ベルト地帯など開発は沿岸部が中心だった。Y：四日市ぜんそくは大気汚染。

問7 いずれもグラフの読み取りに誤りはない。①朝鮮戦争は1950年代前半。②1960～70年代は高度成長期で、第一次産業従事者は減少している。③1919～1921年の漁獲量は増加している。④インスタント食品の登場は高度成長期。

